

12345

英語科教育法Ⅲ

清泉 花子

ナンバリングコード
学生便覧と、「シラバスの見方」に掲載のカリキュラムマップと
対応させてみるときに必要コードです。

科目名
担当教員名

単位数・配当年次・開講期など、授業の基本
情報です。

大学名	清泉女学院大学	学部・学科	人間学部心理コミュニケーション学科	開講キャンパス	上野
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2単位
				配当年次	2年
				開講期	春
授業の概要	この科目は教職の必修科目として、生徒達の資質・能力の向上を視野に入れ、中学校及び高等学校の授業展開における言語要素と言語活動の向上につながるような指導方法を身に付けることを目的とした授業である。生徒達の成長段階に応じた授業展開の検討を通して、言語要素(文法・語彙・文字・発音)の基本的な知識と技能を身につけるとともに、5領域の言語活動(聞くこと・読むこと・やりとり・発表・書くこと)の本質について理解を深め、模擬授業(教材活用やチーム・ティーチングを含む)などをとおして統合言語指導の方法を考察し身に付ける。また、日ごろから教育用語についての知識を深め、クラスルームイングリッシュに慣れ、活用する。				
学修到達目標	指導に関する知識を深め、主体的コミュニケーションが図れるような指導方法を身に付けることを到達目標とする。ICT活用やALTとのチーム・ティーチング方法などについても理解し、生徒達の発達段階に応じた指導ができる力を養成する。				
成績評価方法	模擬授業の実践を含め本授業への参加姿勢度(30%)、課題レポート(30%)、定期試験(40%)				
課題に対するフィードバック方法	中間期の課題レポートに対しては、教員からの総評を書いて次回の授業で返却する。また、模擬授業を行った際にはその都度コメントを付す。				
アクティブラーニング要素	<input type="checkbox"/> 外部連携の課題解決型学習(協定あり) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション(発表) <input type="checkbox"/> 実習・実技・実験 <input type="checkbox"/> フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> リアクションペーパー				
授業計画 授業項目・内容/各回の準備学修(予習・復習について)/担当					
No.	内容	予復習	担当		
1	英語科教育の目的 学習指導要領をもとに「英語科教育の目的と学習達成目標」について理解する。	初回の予習は不要だが、授業内のノートを復習して2回目に臨むこと。		各回の授業の内容が示されています。	
2	言語要素の指導①: 文法指導の実際 コミュニケーションに活かせる文法学習の方法について考える。 ペアで任意の文法項目について説明をし、お互いの指導方法を検討する。	ペアとなった学生の指導方法のよかった点を復習して取り入れる		担当の先生が回替わりになる場合に記載されています。	
3	言語要素の指導②: フォーカス・オン・フォーム コミュニケーション活動をとおした文法指導方法について理解する。	指導法の実践		各回の予習・復習内容が示されています。準備に要する時間の記載がある場合は参考にしましょう。	
4	言語要素の指導③: 目標とする発音レベル 理解に誤解を生じない発音及び文字と音のルールの指導方法について学ぶ。	指導法の実践			
5	言語要素の指導④: 音声変化とプロソディ 円滑なコミュニケーションをはかるための音声指導方法を学ぶ。ALTとのチーム・ティーチングを生徒の立場で体験し理解する。	第5回の振り返り			
6	言語要素の指導⑤: 語彙指導の重要性 意図的学習と偶発的学習を導く指導方法について理解する。フラッシュカードを用い、語彙指導を実践する。	第6回の振り返り			
7	5領域別指導①: 聞くことの授業展開 聞くことのプロセスを理解し、指導方法を考え修得する。直聴直解に指導方法を検討し、音声教材の活用を工夫し理解する。	第7回の振り返り			
8	5領域別指導②: 話すこと(やりとり)の授業展開 話すこと(やりとり)のプロセスを理解し、指導方法を考え理解する。ALTとのチーム・ティーチングを生徒の立場で体験し認識する。	授業内容について、リアクションペーパーを記入して くこと。次回の最初に数人の学生からその内容を 発表してもらうため、熟考して記載すること。			
9	5領域別指導②: 話すこと(発表)の授業展開 話すこと(発表)プロセスを理解し、指導方法を考え理解する。	第7～9回を通じて「話すこと」についての指導法が 完結するので、課題レポートにまとめて期限までに 提出すること			
10	5領域別指導③: 読むことの授業展開 読むことのプロセスを理解し、指導方法を考え理解する。 直読直解の指導方法について検討し、模擬授業を実践する。	模擬授業の振り返り			
11	5領域別指導⑤: 書くことの授業展開 書くことのプロセスを理解し、指導方法を考え理解する。授業DVDを視聴して 概念を理解し、実際にグループで授業体験をして検証する。	DVDの要点をまとめた資料を配布するので、読 んで復習する			
12	領域統合型の言語活動 「タスク活動」を通して、目的達成のための英語使用と指導方法について理解 をする。協働活動(グループワーク)を扱った指導方法を検討し理解する。	グループワークを各自で振り返り			
13	教材・教具 学習目標に合わせた教材・教具(ICTを含む)の活用法を理解し、模擬授業を 実践する。相互に評価し合い、模擬授業を振り返る。	授業内で得た評価をもとに改善法を考える			
14	ALTとのチーム・ティーチング 異文化理解を題材にALTとのチーム・ティーチングを計画し、模擬授業を実 践する。	模擬授業準備			
15	学習指導案(草案)の作成とまとめ これまで学習してきたことを総復習し、50分の授業構成と具体的な活動につ いて考え理解することで適切な指導方法を最終的に身につける。	総復習			
16	定期試験	定期試験のための総復習		各回の推奨される準備学修時間(予 習・復習等)が記載されています。	
準備学修(予習・復習)時間	「各回の準備学修」項目を確認し、講義は4時間程度の予習・復習を奨励します。 課題やレポート提出が必要な場合はそれらに取り組み、常に授業内容の理解を深めるための学習時間が必要となります。				
教科書	岡 秀夫ほか『英語授業力強化マニュアル』(大修館書店 2004年)2,376円				
参考書・文献	白畑知彦他『英語教育用語辞典』大修館書店 文部科学省『中学校学習指導要領-外国語編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説-外国語編』 その他、授業中に適宜資料を配付する。				
履修条件	英語科教育法Ⅰ・Ⅱの修得(または同時履修)、1年次の教職必修科目は修得済であること。				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援【SJCマナバを通して課題を配布する】				
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験の内容【英語科教諭として高等学校に勤務経験あり】				
備考	その他、連絡事項があれば記載されています。				

授業の概要が、担当の先生から説明
される項目です。何を目的としているか、
どのように学んでもらいたいが示され
ています。

カリキュラムマップで示した学習成果、具
体的な到達目標が示されています。

評価項目とその割合(%)で記されています。

学生の皆さんに主体的に学んでもらえる
ように工夫している方法を示しています。

各回の授業の内容が
示されています。

各回の予習・復習内容が示
されています。
準備に要する時間の記載
がある場合は参考にしま
しょう。

各回の推奨される準備学修時間(予
習・復習等)が記載されています。

授業で使うテキストが示されます。
著者、タイトル、出版社、出版年、金額等

履修するにあたっての条件が示されます。他の科目
が修得済であるか、資格・検定の要件があるか等、
よく確認してください。

授業の形式について、講義形式以外で採用
されているものを示しています。また、担当教
員の授業に関連する実務経験、保有資格が
示されます。